

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】

○騒音対策（A中学校）

- ・机とイスにテニスボールを付け、どの生徒にとっても教室が安心して過ごせる居場所づくりをしている。



○学年主任からのメッセージ（B中学校）

- ・学年主任が生徒の通路にメッセージを記入し、毎日生徒を温かく迎え入れる場所づくりを目指している。

○安心して過ごせるための学級経営（B中学校）

- ・担任がクラス内で聞こえた増やしたい言葉と減らしたい言葉をホワイトボードに記入して、クラス全員で安心して過ごせる居場所づくりを目指している。

【取組2】

○強みシート（B中学校）

- ・クラスメイトの良いところを挙げて、1枚のシートにまとめている。生徒同士がお互いを認め合う機会としている。

○落ち葉スターズ（B中学校）

- ・美化委員会が主催するボランティア活動で落ち葉拾いをしている。

【取組3】（C中学校）

理科の授業で、単元を通して振り返りシートを1枚のワークシートにし、各授業で活用している。「今回の学習で分かったことや大切だと思うこと」を記入させ、生徒が主体的に学習に取り組むことができる工夫をしている。

また、ドリルに取り組ませている際に机間指導を充実させ、生徒の状況に応じて適切な声掛けを行うことで安心感を得られるように支援している。また、実験の際も生徒の誤答を大切に、教員が意図的に価値付けている様子が見られる。

【取組4】（C中学校）

夏季休業日中に、教員を対象とした「生徒に対する学校生活の質問調査の結果の見方・使い方」について研修を行った。集団として結果指標を見る方法や、個人の心と安全を確認する方法など、結果の様々な分析方法を学んだ。このことで、自己肯定感を高めたい生徒を把握したり、更に伸ばしたい力などを把握したりする機会になった。

校内別室指導支援員にも校内別室指導支援員オンデマンド研修を行った。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

支援会議は隔週で開催されている。校長、副校長、生活指導主任、各学年主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、特別支援教室専門員、SC、不登校対応巡回教員で構成している。年度当初に共通理解を図った資料や支援が必要な生徒がどの機関とつながっているかを整理している。

アウトリーチによる支援（C中学校）

担任の教員から不登校生徒の保護者に対して、あらかじめ連絡帳で家庭訪問をする日程や内容の連絡をとり、配布物や授業のプリントを家に届けている。休みが増え始めた生徒の保護者にも連絡をして家庭訪問の相談及び調整をしている。

校内別室における支援（B中学校）

休憩をしたり、コミュニケーションをとったりする場所としてソファのある部屋を整備した。また、学習支援をする部屋では、ホワイトボードを設置するなど、活動に応じて利用する部屋を使い分けた。フロアマットも新調し、生徒が過ごしやすい環境を整備している。校内別室指導支援員として複数の支援員が交替で支援している。

様々な教員が生徒の支援に関わっており、生徒が課題に取り組んだ成果物を校内に展示している。生徒の興味に合わせた活動を行うことにより、学校が生徒に合わせて校内別室を運営できるようにしている。生徒同士と一緒に給食を食べたり、コミュニケーションゲームを行ったりすることで、良い人間関係が形成されるようになった。

デジタル機器を活用した支援（A中学校）

プリントの二次元コードから5教科の授業動画が見られる環境を整備した。

また、学習項目を一覧化して、生徒が見通してもって学習計画が立てられるようにした。校内別室指導支援員は生徒の必要に応じてプリントを印刷し、学習の進捗状況や理解度を確認するようにしている。

関係機関との連携（C中学校）

関係機関の資料をまとめたファイルを作成するとともに、先生方が保護者に校内別室や教育支援センター、教育相談室などの関係機関を案内できるようにプリントを用意した。

また、区の不登校連絡会に教育支援センターの職員も参加して、情報を共有するようにしている。

成 果

巡回している全ての学校の校内別室の体制が整い、各校で毎日開室することができている。また、保護者やSCとの協力体制も構築できるようになった。

課 題

校内別室への登校ができなくなった生徒の支援や、不登校の未然防止の充実が課題である。